

## Ⅲ 県営都市公園が目指すべき方向

県営都市公園を取り巻く環境などを踏まえ、「岐阜県都市公園活性化懇談会」において目指すべき方向について、以下のようなご意見をいただきました。

- ・交通条件、人口減、高齢社会といった国土像の転換というものの中なかで、岐阜がどういう方向を示すのかを視野におきながら、公園が果たすべき機能を検討することが必要。
- ・県だけでなく、地元の市町と合わせて、民間が一体になって公園のストック資産を活用しながら、岐阜県が目指す将来像に貢献する公園とすべき。
- ・都市公園は、観光、イベント、商業など様々な分野で何でもできるが、何でもやるのではなく、良いところを伸ばす方向で取組むことが必要。
- ・地域の人に愛されている、利用されているといったことは重要。
- ・市民、ボランティアに支えられる運営も公園を支えるものとして必要。
- ・民間も参加しやすい仕組みを作ることが必要。イベントではなく、継続的に何かできるということで商売が成り立ち、民間も参加できる。
- ・子どもたちの教育、親子で学べる場としての活用が必要。春夏秋冬、子どもたちが学べる場として公園を利用すべき。
- ・公園と、本美濃紙、清流長良川の鮎などの地域の宝を結びつけるべき。
- ・個々の公園が競合するような関係ではなく、機能補完をしながら、公園の戦略的回廊を形成していくことが重要。
- ・公園だけではなく、歴史や文化など世界的に発信できるような資産とどう連携していくのか、そのためにはどういう機能を活かしていくか、という順番で発想していくことが必要。
- ・流域の要に4つの公園がある。清流長良川はそのシンボル。木曾川であっても揖斐川であってもいい。清流とその要にある公園というものを、内外にアピールしていく。
- ・すべてについての戦略性と情報発信が不足しており、情報発信の仕組みを考えながら、相互の公園の魅力を醸成して、地域資源の発掘の大きな機会としながら地域振興に資する県営公園としていくことが必要。
- ・全国的に公園が量的に拡大し、均一に整備・管理しようとする、相当の予算を要することになってしまうため、公園管理者はマネジメントではなく、メンテナンスに重点を置いてしまう。その結果、公園の魅力が薄れてしまい、利用者が減るといった負のスパイラルが起こっている。
- ・最近の観光の議論の中でよく出てくる戦略的な見せ場「ビューポイント」を、必ずしも目で見ることだけでなく心に感じることも含めて、そこを代表できるような、人々の気持ちをつかむようなものをどのように考えていくかという戦略が重要。
- ・各公園は、当時単体の目的あるいは作ることが目的とされた公園であり、それが今矛盾をきたして、必ずしも地域と連携しているわけではない。未来の岐阜に貢献できる公園づくりが必要。